

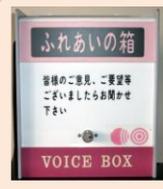
令和6年9月診療予定表

診療時間(午前:9:00~12:00 午後:15:00~18:00) ※予告なく変更となる場合があります。

日	曜日	午前診				午後診			当直
		内科・一診	内科・二診	内科・三診	小児科	内科・一診	内科・二診	小児科	
1	日	休診(日直 岡本)							温
2	月	前田純	多田羅	西脇	岩井	前田純	西脇	岩井	竹崎
3	火	前田純	田代	佐尾山	岩井	佐尾山	田代	岩井	田井
4	水	隈元	多田羅	佐尾山	岩井	前田純	多田羅	岩井	多田羅
5	木	佐尾山	多田羅		岩井	佐尾山	藤原	岩井	次田
6	金	前田純	多田羅	佐尾山	岩井	佐尾山		岩井	松川
7	土	穴田	隈元		岩井艶	馮			高橋重
8	日	休診(日直 高橋重)							
9	月	前田純	多田羅	西脇	岩井	前田純	西脇	岩井	竹崎
10	火	前田純	田井	佐尾山	岩井	佐尾山	田井	岩井	田井
11	水	隈元	多田羅	佐尾山	岩井	前田純	多田羅	岩井	多田羅
12	木	佐尾山	多田羅		岩井	佐尾山	藤原	岩井	次田
13	金	前田純	多田羅		岩井	佐尾山		岩井	松川
14	土	前田純	藤原		岩井艶	竹谷			桑原
15	日	休診(日直 桑原)							宮地
16	月	休診(日直 阪梨)							阪梨
17	火	前田純	田代	佐尾山	岩井	佐尾山	田代	岩井	田井
18	水	隈元	多田羅	佐尾山	岩井	前田純	多田羅	岩井	多田羅
19	木	佐尾山	多田羅		岩井	佐尾山	藤原	岩井	次田
20	金	前田純	多田羅	佐尾山	岩井	佐尾山		岩井	安藤
21	土	前田純	隈元		岩井	馮			桑原
22	日	休診(日直 桑原)							高橋重
23	月	休診(日直 宮地)							
24	火	前田純	田井	佐尾山	岩井	佐尾山	田井	岩井	田井
25	水	隈元	多田羅	佐尾山	岩井	前田純	多田羅	岩井	多田羅
26	木	佐尾山	多田羅		岩井	佐尾山	藤原	岩井	次田
27	金	前田純	多田羅		岩井	佐尾山		岩井	
28	土	前田純	福家		岩井	前田純			津村
29	日	休診(日直 津村)							
30	月	前田純	多田羅	西脇	岩井	前田純	西脇	岩井	竹崎

※多田羅Dr. 4・11・18・25日の午後診は16:00~17:00、月曜日は午後診⇒午前診へ変更になります。
※皮膚科・形成外科は予約診療・訪問診療を行っています。

専門外来	消化器内科	前田隆史 前田純	呼吸器内科	前田隆史
		田井裕樹 田代康平	呼吸器外科	佐尾山信夫
	消化器外科	隈元謙介 馮東萍	泌尿器科	多田羅潔
		藤原潤一 竹谷洋	小児科	岩井朝幸 岩井艶子
		福家拓郎		



ふれあいの箱
皆様のご意見、ご要望等
ございましたらお聞かせ
下さい

VOICE BOX

当院では、正面玄関や病棟に「ふれあいの箱」というご意見箱を設置しておりますので、当院に対するご意見・ご要望等ございましたらご遠慮なくお聞かせください。



善通寺 前田病院

広報 純心便り

2024年

8・9月

第196号

トピックス

- 今月の一言………理事長
- 第58回 善通寺まつり
- 化膿性脊椎炎について
- 子宮頸がんワクチン……岩井朝幸

〔純心会理念〕

信頼される医療
想いと優しさの伝わるケア
私たちはそれを目指します



皆さまこんにちは。
9月になり少しは涼しくなってくるのかなと思いましたが、天気予報などではまだまだ暑い日が続くようです。だんだんと秋という季節が短くなっていつている様な気がします。

さて、まずお詫びをしなければならぬのですが、先月8月のこの純心だよりの原稿を飛ばしてしまいました。この夏の暑さと目の回るような忙しさに忙殺され、気が付くと8月が終わってしまっておりまして。毎月楽しみにされている方(がいるかどうかはわかりませんが…)には誠に申し訳ありませんでした。というわけで今月が8月9月合併号という形で出るのではないかと思えます。どうかご容赦ください。

話は変わりますが、9月から10月にかけて、純心会の各施設で納涼祭をおこないます。コロナ前までは夏祭りということで8月に行っていたのですが、近年の暑さでは夕方とはいえず、8月に屋外のイベントは熱中症などが出ては大変だという事で、今年から9月中心に行う事となりました。コロナ禍の期間中はなかなか開催できず、各施設、久しぶりの開催となります。我々にとつて、ご利用者様、入居者様、ご家族様、地域の皆様と交流して頂ける大切なイベントになりますので、やっと思っております。スタッフのみなさんも皆様に楽しんで頂けるように、張り切って準備しております。ご出席いただける方には是非たのしんで頂きたいと思えます。

もう少し暑い日が続くようです。まだ熱中症で運ばれる方も多いようですので、皆様体調管理、温度管理に気を付けて健やかに過ごしてください。

善通寺まつり

日中は猛暑、夜間は熱帯夜と、過去に例をみないほど熱く雨の降らない8月が継続中です。
さて、7月20・21日に開催された第58回善通寺まつりに、純心会・善心会から約50名が参加しました。
初の参加で、衣装も新たに新調し、披露したおどり「うらじや」も岡山純心会から教えに来てもらい、約2ヶ月間の練習を積み重ね、本番の舞台では楽しく踊り上げました。





化膿性脊椎炎について



化膿性脊椎炎とは

化膿性脊椎炎とは、細菌が血液の流れに乗って背骨（脊椎）に運ばれ、感染を引き起こす病気です。

発熱をはじめ、腰痛や背部痛など感染部位に応じて痛みが発生するほか、症状が進むと下半身の麻痺や排尿障害などの症状がみられることもあります。

原因となる菌はいくつかありますが、中でも黄色ブドウ球菌が半数以上を占めます。

原因菌が結核菌の場合は感染部位や症状などが異なるため、化膿性脊椎炎ではなく脊椎カリエスと判別されます。

化膿性脊椎炎は40〜50歳代に多くみられます。

また、糖尿病やがん、肝機能障害、透析治療を受けている人など、免疫力が低下している人に起こりやすいため、日本の高齢化に伴い、高齢で化膿性脊椎炎を発症する方が増加しています。

分類

【急性期タイプ】

38℃以上の高熱・腰背部の激痛などがあり、急な発症が特徴です。

発症前は問題なく生活ができますが、発症直後より高熱や腰部痛によって動

治療

【保存治療】

化膿性脊椎炎の基本的な治療法は、保存治療の1つである薬物療法です。

薬物療法では抗菌薬の点滴を行い、原因となる細菌を死滅させます。

抗菌薬の投与は血液検査で白血球やCRP、血沈など炎症マーカーが正常化するまで必要となるため、長期間にわたる治療の継続が必要です。多くは1か月程度抗菌薬の点滴を行い、その後2〜3か月ほど抗菌薬を内服します。

また、骨がもろくなっている可能性もあるため感染した状態が落ち着き、骨の強度が安定するまでは安静に過ごすことが重要です。

その期間は、コルセットを着用するなど、骨に負担をかけない生活をする必要があります。

【手術療法】

抗菌薬を投与しても痛みが治らない場合や、骨の破壊が進んでいたり、麻痺などの神経症状や骨の強い変形などが生じていたりする場合に検討されます。

治療内容は、感染の程度や全身の状態などによって判断されます。骨の変形が進んでいる場合には、脊椎固定術や骨移植術を行う場合もあります。

また、明らかに膿の貯留が認められる場合には経皮的ドレナージを行い、同時に抗菌薬を点滴することもあります。

けなくなり、仕事や家事などの日常生活が難しくなります。

【亜急性タイプ】

37℃台の微熱や腰背部の痛みが特徴です。

原因不明、もしくは直近に患っていた病気が完治しているのに微熱が続いている方などは注意しましょう。

【慢性タイプ】

基本的に発熱はなく、腰背部の軽微な痛みでの発症が特徴になります。腰背部痛が慢性的に続き、原因不明で検査により明らかになることがほとんどです。

原因

化膿性脊椎炎は、脊椎に細菌が入り込み、血流の悪い椎間板で細菌が繁殖して椎間板炎が起こることで発症します。

主な原因には、手術や検査などを通じて直接脊椎に細菌が入り込むほか、呼吸器感染症や尿路感染症、虫歯や歯周病などの口腔内の感染症が起因となり血流に乗って脊椎に細菌が入り込むことが挙げられます。

特に、糖尿病やがん、肝機能障害や透析治療などの影響で免疫力が低下している場合は、化膿性脊椎炎を引き起こしやすいため注意が必要です。

予防と予後

化膿性脊椎炎は、糖尿病やがんなどの持病がある人、透析療法を受けている人など免疫機能が低下している場合に起こりやすい病気です。

早い段階で病気を発見し適切な診断と治療を行うことで比較的良好な経過をたどることもあるといわれています。

そのため、糖尿病やがんなどの持病がある人、透析治療を受けている人は、定期的に検査を受けるなど早期発見に努めましょう。

また、病気以外にも過労やストレス、加齢などで免疫力が低下し、細菌感染を引き起こすことがあります。十分な睡眠時間の確保や食事バランスに気を配るなど、規則正しい生活習慣を心がけましょう。

一方で、抗菌薬に耐性が出来てしまったり、発症に気づくのが遅くて進行していきたりする場合は治療が長引くケースもあります。

化膿性脊椎炎は抗菌薬の治療が不十分な場合、再発する可能性があり、原因菌が残っている状態で抗菌薬を終了すると耐性ができてしまい、治療が進まない場合もあります。

また、神経症状が出現した場合は手術が検討されますが、手術を施行したとしても神経症状が完全に良くなるとは限りません。

症状

化膿性脊椎炎を発症すると、発熱をはじめ、腰痛や背部痛など感染した部位付近の痛みが生じます。罹患部位としては、腰椎・胸椎・頸椎の順番で多くなっています。

患部を叩くと痛みが強くなるという症状がみられることも1つの特徴です。感染した脊椎が潰れたり周囲の組織に異常が生じたりすると、体重を支えたり体をスムーズに動かしたりすることが難しくなる場合があります。

また、脊椎の内側で守られている神経（脊髄）の周辺（硬膜外）に膿がたまって神経が圧迫された場合は、下半身の麻痺、排尿・排便障害などの症状が現れることもあります。

神経の症状は一度起こると元に戻りにくいいため、進行する前に排膿など手術的治療を受けることが大切です。

なお、化膿性脊椎炎には急性化膿性脊椎炎と慢性化膿性脊椎炎があり、症状の程度が異なります。

急性化膿性脊椎炎では、高熱や腰・背中の強い痛みが現れますが、慢性化膿性脊椎炎は比較的痛みは軽く、発熱しても微熱に留まる傾向にあります。

子宮頸がんワクチン



善通寺前田病院 小児科 岩井朝幸

子宮頸がんはヒトパピローマウイルス（HPV）が子宮頸部に感染することにより発生する悪性腫瘍で、年間の発生数は約11000人で、死亡数は約3000人です。下図のように20代から急激に増加します。ワクチンによる予防が可能です。日本でも2013年4月から定期接種となりましたが、接種後、「多様な症状」を訴える女子の報道が繰り返されたため、同年6月から厚生労働省により積極的接種勧奨の差し控えがなされました。その結果、接種がほとんど行われな時期が続きました。その後、安全性が確認され、2022年4月から接種勧奨が再開されました。現在は9価のワクチンが接種可能で、子宮頸がんの原因となるHPV感染を約90%予防する効果があると言われています。

ワクチンの接種率が上がることで、発生数の山を低くすることが期待されます。

検査と診断

【レントゲン】

化膿性脊椎炎は進行により椎間板の狭小化・椎体破壊を認めるため、早期のレントゲンではわかりません。

一方でレントゲンにて椎間板の狭小化や椎体破壊を認めた場合は、発症から時間が経過しているケースです。

また高齢の方では、加齢に伴う椎間板の狭小化や既往歴に椎体の圧迫骨折などを発症している可能性があるため、化膿性脊椎炎との鑑別が大切です。

【CT・MRI】

CT・MRIは主に炎症の広がりや膿腫の広がりを確認できます。

どちらも早期より椎体や椎間板の変化を確認でき、早期診断・病期の評価・治療効果の判定に優れています。

【採血・血液培養】

採血では炎症の拡大とともに、白血球の増加やCRPが高くなります。CRPは炎症の値を示した数値で、CRPが高いと炎症を起こしている指標の一つになります。

血液培養では、感染の原因となる細菌を特定するため、血液あるいは尿を採取して、培養検査を行う場合もあります。

ます。積極的勧奨が差し控えられていた時期に接種時期を迎えていた平成9年4月2日〜平成20年4月1日生まれの女性に対してキャッチアップ接種がなされています。令和7年3月31日まで公費による無料接種が可能で、十分な効果を期待するには3回接種する必要があり、1回目は令和6年9月中に接種を開始する必要があります。

また、発がん性はあるものの、ワクチンに含まれない亜型もあるため、それらによる病変を早期に発見するためには検診が必要です。ワクチン接種と検診をセットで行い、女性を子宮頸がんから守りましょう。



年齢階級別発生数

